

■ タイトル

工事用エレベータ昇降シャフトに顔を出し、顔を挟まれ

■ 基本情報〔土木・**建築**〕

災害発生日	2010年 1月			
災害属性	被災程度	人災	被災者属性	-
被災者	職種	-	年齢	- 歳
	経験年数	- 年	就労日数	- 日
災害情報	型別	挟まれ	起因別	エレベータ
機械属性	機種	工事用エレベータ	能力	0.9 t
	仕様	ロングスパン	その他	-

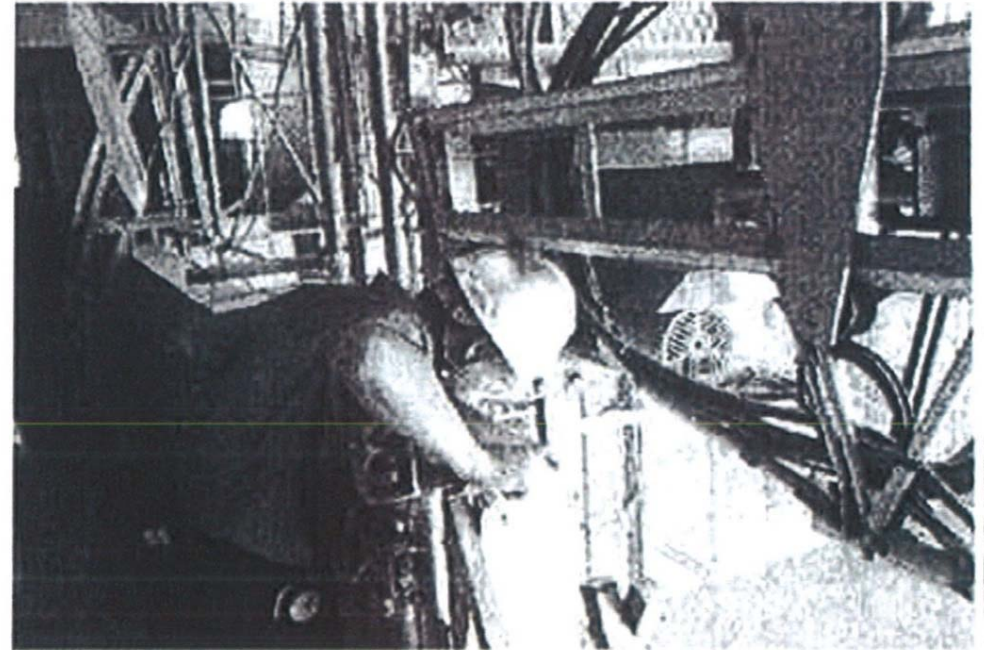
■ 事故・災害発生状況

被災者はP C手すりタイルの貼り替えの為、6階の廊下より工事用エレベータシャフトに顔を出して補修を行っていたとき、7階で荷降ろしを終了し下がってきたエレベータに気がつかず、P Cの手すり壁（H = 1250）とエレベータの間に顔を挟まれ被災した。

■ 発生要因（WG想定含む）

- ①当日は、コンクリート打設作業とも重なり工事用エレベータの動作を知らせる ブザー音が聞き取りにくかったと思われる。
- ②作業計画の確認不足 作業打合せの未実施。
- ③直上階で工事用エレベータが停止しているにもかかわらず直下階で作業を行っていた。
- ④タイル貼り替え作業箇所が廊下側から作業可能であった為、工事用エレベータの稼動状況を確認しないまま作業を行った。
- ⑤各階搬入口ゲート以外エレベータシャフト部分の養生が徹底されていなかった。

■ 発生状況図



■ 再発防止対策（WG想定含む）

- ①各階の搬入口スライダーゲート以外の部分をH = 1950（1800以上 必要）まで養生枠を設置し、注意喚起の看板を設置した。
- ②工事用エレベータの搬器下部に回転灯を階数表示を付けた鎖を取り付けた。
- ③緊急安全大会を実施し、作業員全員に事故の報告と再発防止対策の周知徹底を行った。
- ④エレベータシャフト内の作業が必要な場合は、事前に作業間連絡調整によりエレベータを停止する。（停止時は、使用禁止等の表示、操作盤の施錠等を行なう）